

## 【活用にあって】

個人的な話ですが、「コウゾは和紙の原料である」ということは、知識としてありました。ただ単なる知識です。実際のところ、なぜ木が紙の原料になるのだろうかという疑問を抱えたまま大人になってしまいました。

和紙の原料になるのは幹の皮の部分であること、和紙になるにはたくさんの工程があること、今でも生産されていることを知ったのは、新聞の記事からです。

岐阜県の地方版を読むと、1枚の紙になるまでの過程を垣間見ることができます。資料として添付しました。自分たちと同じ小学生の取り組みなどを通して、「コウゾ」の意味を深いものにしていただければと思います。

### 解答例

問1：蒸して～る作業（蒸して～白する）

（和紙の～す作業、和紙の～さらす）

問2：和紙作りで白さを出すため。

## 和紙の原料 コウゾの皮むき

美濃の牧谷小児童が体験



コウゾの皮を勢いよく引っ張る児童たち＝美濃市片知の加工所で

美濃市牧谷小学校の四年生二十人が二十日、同市片知のコウゾ生産組合穴洞支

部の加工所で、和紙の原料となるコウゾの皮むきを体験した。

同小では四年生が毎年、和紙の生産工程を体験している。児童たちは支部員ら十二人に教わりながら、蒸して柔らかくしたコウゾの皮をむいた。

少しだけ先の皮をむいたコウゾの枝を、金属棒のついた専用機具に引っ掛け、勢いよく引っ張る作業。加工所にはサツマイモを蒸したような香りが漂った。庄司恵翔君（九つ）は「枝の接ぎ目をむくときに引っ掛かって大変だった」と振り返った。

むいた皮は、乾燥や寒ざらしを経て業者に出荷される。（森健人）



組合の千田崇統支部長  
(三)は「地元のコウゾを使

和紙にはならない。  
高温のボイラーで四時間  
蒸したコウゾからは、焼き  
イモのような甘い香りが漂  
う。まだ湯気が立ち上るコ  
ウゾを、組合員八人が手に  
取り皮をむく。皮は十数本  
を束ねて外の干し場へ。カ  
ラカラになるまで乾燥させ  
る。

記者も体験してみた。蒸  
し上げたコウゾの皮はやわ  
らかい。金属棒のついた専  
用器具に引っ掛け、いきお  
いよく引っ張ると、数々の  
皮と幹の部分に当たるコウ  
ゾがらとに分かれた。がら  
は、たき付けに使う。コウ  
ゾの八割以上を占めるが、  
和紙にはならない。

美濃和紙の原料、クワ科  
のコウゾ。まるでゴボウの  
ような樹皮は、すき舟に浮  
かぶころには純白の繊維に  
変わる。二十五日、美濃市  
片知の市コウゾ生産組合穴  
洞支部の加工場で、皮むき  
があった。

# 手間かけ白い和紙に

⑮ コウゾ (美濃市)

いたいという職人は多い。自信を持っている。職人が  
紙にしたときの美しさには 求めるコウゾを作っている



「たい」と意気込む。支部は  
今季、昨季の倍以上を収穫  
した。  
純白の繊維になるために  
は、さらに「たくり」と呼  
ばれる茶色い表皮を取り除  
く作業が待っている。コウ  
ゾが和紙になるまでの道の  
りは長い。(秋田耕平)

皮むきして天日干しされるコウゾ。すき舟に浮かぶころには純白の繊維に変わる＝美濃市片知で

## 美濃手すき和紙 原点の技 板取川でコウゾの寒ざらし



漂白のため冷たい水に浸すコウゾの寒ざらし＝美濃市の板取川で

美濃手すき和紙の原料コウゾを川にさらす「寒ざらし」が十五日、美濃市御手洗の板取川であった。

コウゾを流水に浸し、日光で自然漂白させて不純物を取り除く。現在は各工房の水槽での作業が一般的だが、技術継承を目的に毎年

この時期に実施している。コウゾが流れないように石で囲んだざらし場は長さ七段、幅六・二段。本美濃紙保存会と美濃手すき和紙協同組合の職人ら二十人が水温六度の川に入り、茨城県産「大子那須栝」二二・五キを敷き詰めた。

組合の鈴木竹久組合長（七）は「川ざらしは美濃手すき和紙の原点。先人がやってきた伝統を絶やさず、守っていききたい」と語った。

コウゾは美濃和紙の里会館の紙すき体験で使う。

（秋田耕平）

卒業証書にする和紙を作るため、紙すきを  
する児童ら＝飛驒市河合町のいなか工藝館で



## 卒業証書の山中和紙作り

飛驒市河合小学校の6年生7人が2日、同市河合町のいなか工藝館で、自分たちの卒業証書にする和紙を、同町の伝統工芸品「山中和紙」の紙すきの技ですいた。

同校では毎年、卒業しても故郷への誇りを忘れずに持ち続けてもらおうと、6年生が山中和紙で卒業証書を作る取り組みを続けている。

児童らは、地元の和紙職人・柏木一枝さんから指導を受けながら、網を張った木枠で、コウゾの繊維とトロロアオイを溶かした水をすくい、紙をすいた。さらに、水分を飛ばした後、熱した金属板に貼り付けて乾燥させ、1人2枚ずつ和紙を完成させた。

畑菜花さん(12)は「厚さをそろえたり、しわが出ないようにするのが難しかった」と話していた。

完成した卒業証書は、3月24日の卒業式で児童らに手渡す。  
(瀬田貴嗣)

河合小6年生が紙すき